

## 第 25 回秋田県理学療法士学会 趣意書

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年より延期となっていた第 25 回秋田県理学療法士学会を令和 3 年 6 月 26 日(土)にオンラインで開催させていただきます。本学会のテーマは「スポーツ理学療法 ケガの予防について考える」です。

コロナ禍で延期となった東京 2020 オリンピック・パラリンピックは開催に向け、連日メディアでその話題が取り上げられています。近年、県内のスポーツも全国で活躍し盛り上がりを見せており、競技力の向上は目覚ましいものがあります。一方で競技力向上のためのトレーニングはケガのリスクを伴っており、その華々しさの陰で選手をサポートするスタッフの存在は大きくなっていると感じます。スポーツ安全協会によると平成 28 年度加入者の傷害保険支払い件数は約 16 万件となっており、そのほとんどが骨折、脱臼などの外傷によるもので、通院までに至らない使い過ぎなどによる障害を含めると相当な数になると考えられます。特に、学生のスポーツ活動の期間は限られているため、一度ケガをしてしまうとその時間的損失は大きいものがありますが、競技によっては開発された障害予防プログラムを実行することで発症率が減少したという報告もされています。このような意味からも、動作分析を得意とする理学療法士にとってスポーツによるケガの予防はもっとも専門性を発揮しやすい分野であり、今後、医学的サポートをするスタッフの存在はますます重要になってくると考えます。

当会は、平成 19 年秋田国体で各競技にトレーナー帯同したのを契機に、高校野球夏の甲子園の県大会や代表校への帯同、障害者スポーツ大会のコンディショニングルームの開設など積極的にスポーツ現場でのサポート活動を行っています。この他にも県民の傷害予防や心身の健全な育成のためにトレーナーサポート事業、出張理学療法講座を行っており、このような活動を継続して行っていることをもっと広く県民に啓蒙していく必要があると考えます。

このような観点から、本学会では現場の活動や診療に十二分にお応えできるご講演をお願いしました。特別講演には、飛び込み競技日本代表のトレーナーとして世界水泳や 2016 リオオリンピックに帯同し、腰痛におけるシステムティックな評価とアプローチが大変好評であります桐蔭横浜大学スポーツテクノロジー学科教授の成田崇矢先生をお招きし、障害予防への取り組みについてご自身の活動内容も含めご講演いただく予定です。また、モーニングセミナーとして城東整形外科理学療法士の渡部裕之先生に、超音波画像の臨床応用について運動器疾患の障害予防に関連した内容でご講演いただきます。さらに一般演題に加え、本学会でも当会専門領域研究班から各領域のトピックスについての教育講演を予定しています。

最後に、今学会がより多くの理学療法士にとってスポーツの現場で活動するきっかけとなり、県民の傷害予防や心身の健全な育成に貢献する一助となれば幸いです。

学会長 山浅 勉  
学会準備委員長 鎌田 哲彰  
(JA 秋田厚生連 秋田厚生医療センター)